

11月の果実の見通し

令和3年10月31日現在
山形県東京事務所

区分 品目	主産地	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		販売見通し
		前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年実績	前年比 見込	5カ年 平均	前年 入荷量 (t)	前年 占有率 (%)	
りんご類	長野 青森 山形 ほか	8125	95%	7674	281	高い ～ 並み	299	1525	18.8%	本年度は、春先の天候が各県の出荷数量に影響を与えている。青森・長野県他、小玉の割合が多いことやさび果の比率が高いことから、各県とも1割位の減少を見込んでいる。「サンふじ」のスタートは、山形産が10月下旬から、長野産が11月上旬から、青森産は11月中旬からの見込みとなっている。食味は寒暖の差があり良好なものに仕上がっている。相場展開は、大玉比率が低く、上等級の割合も少ないことから若干高くなる週が見込まれる。中間層の販売展開が軸となる。
西洋なし類	山形 新潟 ほか	1092	85%	1139	392	高い ～ 並み	355	1003	91.8%	山形県産「ラ・フランス」は、10月21日よりエチレン品の販売開始で、予冷品は25日からの販売開始となることで全JAの出荷が始まる。玉肥大は前年並みの小玉傾向だが18玉中心となる。全体数量は前年より少ない見込み。新潟産「ルレクチェ」は11月下旬頃からの出回りとなり数量は前年並みからやや少ない。
かき類	福岡 奈良 新潟 ほか	6504	90%	6858	324	並み	272	480	7.4%	全体的に「富有柿」が主体となってくるが、「種無し柿」も残る。富有柿は福岡・奈良産他は11月中旬頃からのピークに入る見込み。本年度は寒暖差があり着色は良く全体的に前進傾向で出荷される。愛知産「次郎柿」は春先の天候と数年前の雹害の影響が大きく、例年よりも少ない見込み。全体的には若干小玉傾向。
干し柿	山梨 長野 富山	103	80%	110*	2070	並み	1920*	-	-	山梨産「あんぼ柿」は前年は多かったが本年度は前年比2割から3割減。10月上旬からスタートしており、ピーク時期は11月中旬から。富山産は10月末を予定しており、福島産「あんぼ柿」は11月下旬からとなる。長野産「市田柿」下旬より始まる。
みかん類	愛媛 長崎 熊本 ほか	21622	105%	21274	285	並み ～ 安い	276	-	-	10月の販売は前年比数量増・単価安で推移し10月末より熊本・愛媛産、11月から長崎産「早生みかん」の販売がスタートする。みかん総体の出荷量は各県により差はあるものの11月の出荷量は前年並みもしくはそれ以上と思われる。玉流れはM中心L>Sとなり前年同様の玉流れ。10月の「極早生」は販売苦戦となったが、11月は「早生みかん」が本格出荷に入り前年並みの品質に仕上がっている状況から食味に期待できる。愛媛産「紅まどんな」は11月10日頃から販売が予定されている。

引用資料:「東京都中央卸売市場における果実の品目別取扱実績」(青果物情報センター)、果実の入荷・市況見通しについて(東京青果(株))

入荷量について:「0」はラウンドして1tに満たない入荷があったもの。「-」は本県のデータがないもの(入荷がないか、又は少なかったためにその他の産地に含まれる)